

## 令和4年度「熊本の学び」研究指定校事業 事業実績報告書

研究指定地域	西原村立西原中学校区			
学校の概要	研究指定校	児童 生徒数	教員数	校長名・研究主任名
※教員数は常勤 教員(講師も含む) の数	西原村立山西小学校	326人	27人	校長 井上 利之 研究主任 竹田 直樹
	西原村立河原小学校	63人	13人	校長 井上 由紀 研究主任 三宅 恵美
	西原村立西原中学校	232人	21人	校長 白石 孝裕 研究主任 井 美奈帆

研究主題
「新たな知」をひらく学びへ ～自ら問いを発し、学び続ける子供の育成～

現状や課題	計 画	目指す成果【検証方法】
<p>※①:学級づくり面 ②:授業改善面 ③:地域連携面</p> <p>1 地域共通</p> <p>①各学校とも子供たちは落ち着いている。一方で、不登校の改善が必要である。また、自ら生活をよりよくしようとする態度の育成が必要である。</p> <p>②ねらいの達成を目指した授業の蓄積が不十分である。特に表現力の育成が必要である。</p> <p>③学力向上に向けた取組が行われている。より効果を上げるには保小や小中の連携を強化したり、地域の教育力を活用したりして取り組む必要がある。</p> <p>2 中学校</p> <p>①不登校の実情に対応するため、特別活動を中心に、互いに協力し合いながら、きずなを深める取組が必要である。</p> <p>②中学1年生の学力保障が課題である。円滑な接続を図るため、小学校との連携が重要である。</p> <p>③地域と「身につけさせたい資質・能力」の共有化を図るとともに、地域と連携した取組を工夫する必要がある。</p> <p>3 小学校</p> <p>①不登校の実情に対応するため、特別活動を通して自分の思いや考えを率直に表現できるような学級づくりや取組が求められる。</p>	<p>1 地域共通</p> <p>○不登校数の減少、児童生徒の自己肯定感や規範意識、発進力等の意識の向上が見られる。【心のアンケート調査・県学力調査(i-check項目)】</p> <p>○教師による授業改善が推進され、各学力調査における伸びが見られる。【全国・県・村学力調査】</p> <p>○目指す児童生徒像について共有し、その実現に向けた連携した取組が行われている。【実施状況】</p> <p>2 中学校</p> <p>○いじめ・不登校等の生徒指導上の課題が改善され生徒の主体的な活動が促進されている。【心のアンケート】</p> <p>○発達段階に応じた学力の向上と学校生活に対する意識の向上がみられる。【i-check 項目】【熊本県学力調査】【1年生に関する独自調査】</p> <p>○学校運営協議会の活性化が図られ、地域と連携した取組が積極的に実施されている。【学校運営協議会開催状況、アンケート調査】</p> <p>3 小学校</p> <p>○主体的な児童の活動が促進し、いじめ・不登校等の解消につながっている。【心のアンケート】</p>	

<p>②県学力調査における伸びは見られるが、個人差が大きく、低学年時からの個に応じた指導の工夫や家庭と連携した取組が必要である。</p> <p>③学校・家庭・地域が連携し、学校が見えていない部分や弱い部分を補うために、地域の教育力を活かした取組を積極的に展開する必要がある。</p>	<p>○地域と連携した学習活動の展開と学習に対する意識の向上がみられる。【i-check 項目】【熊本県学力調査】【1年生に関する独自調査】</p> <p>○学校運営協議会の活性化が図られ、地域と連携した取組が積極的に実施されている。【学校運営協議会開催状況、アンケート調査】</p>
---	--



研究の具体的な取組内容の実際



1 研究の仮説

子供の主体性を生かした学級づくりを基盤とし、子供が自ら課題に気づき、解決に向けて主体的な学びに向かおうとする授業改善を行うとともに、五者が連携した教育活動を行えば、子供の進んで学ぼうとする意欲が高まり、自ら問いを発し、学び続ける子供が育つであろう。

2 研究の視点と具体的な取組内容

(1)学級づくりについて

①一人一人が大切にされる学級づくり(1①、2①、3①)

- 目指す子供像の設定
- 目指す子供像に向けた日常の取組

②主体的に課題解決に取り組む学級づくり(1①、2①、3①)

- 各学校における学級活動の充実(よりよい生活や学級づくりをめざした学級活動)
- 児童会活動や生徒会活動の活性化(よりよい学校を目指した多様な児童生徒が主役となる取組)

③中学校の生徒会活動を中心とした、小中連携の児童生徒による主体的な活動の展開(1①、2①、3①)

- 小学校の児童会と中学校の生徒会との連携によるよりよい生活づくり、学校づくり、村づくり等について  
の話し合い(西原村子ども未来会議)の開催
- 西原村子ども未来会議を通して決定した事項の小中学校での共通実践

(2)授業づくりについて

①自ら問いを発し、学び続ける子供の育成をめざした授業の工夫改善(1②、2②、3②)

- 9年間を見通した「学びの構え」づくりの作成と本村の研究に沿った授業チェックリストの作成
- 授業の工夫改善
  - ・单元デザインの工夫(「单元ゴールの姿の設定と児童と教師、児童間の目標の共有化」「单元を通じた学習課題の設定と1单元、1単位時間における学習過程の明確化」)
  - ・協働性を促す学び合いの工夫(「課題の設定の工夫」「グルーピングの工夫」「話し合いのスキルの向上」)
  - ・「学びの自覚」の工夫(「導入の工夫」「ICTの効果的活用」「振り返りの充実」)

②小学校低学年、中学校1年時における学力の定着(1②、2②、3②)

- 小学校低学年における基礎学力定着のための取組の工夫
  - ・幼保小の連携とスタートカリキュラムの工夫
  - ・定着を図るための多様な取組
- 中学校1年生における学力向上に向けた取組の工夫
  - ・アンケート調査の実施・分析と課題の共有
  - ・定着を図るための多様な取組
  - ・小中連携した取組の工夫

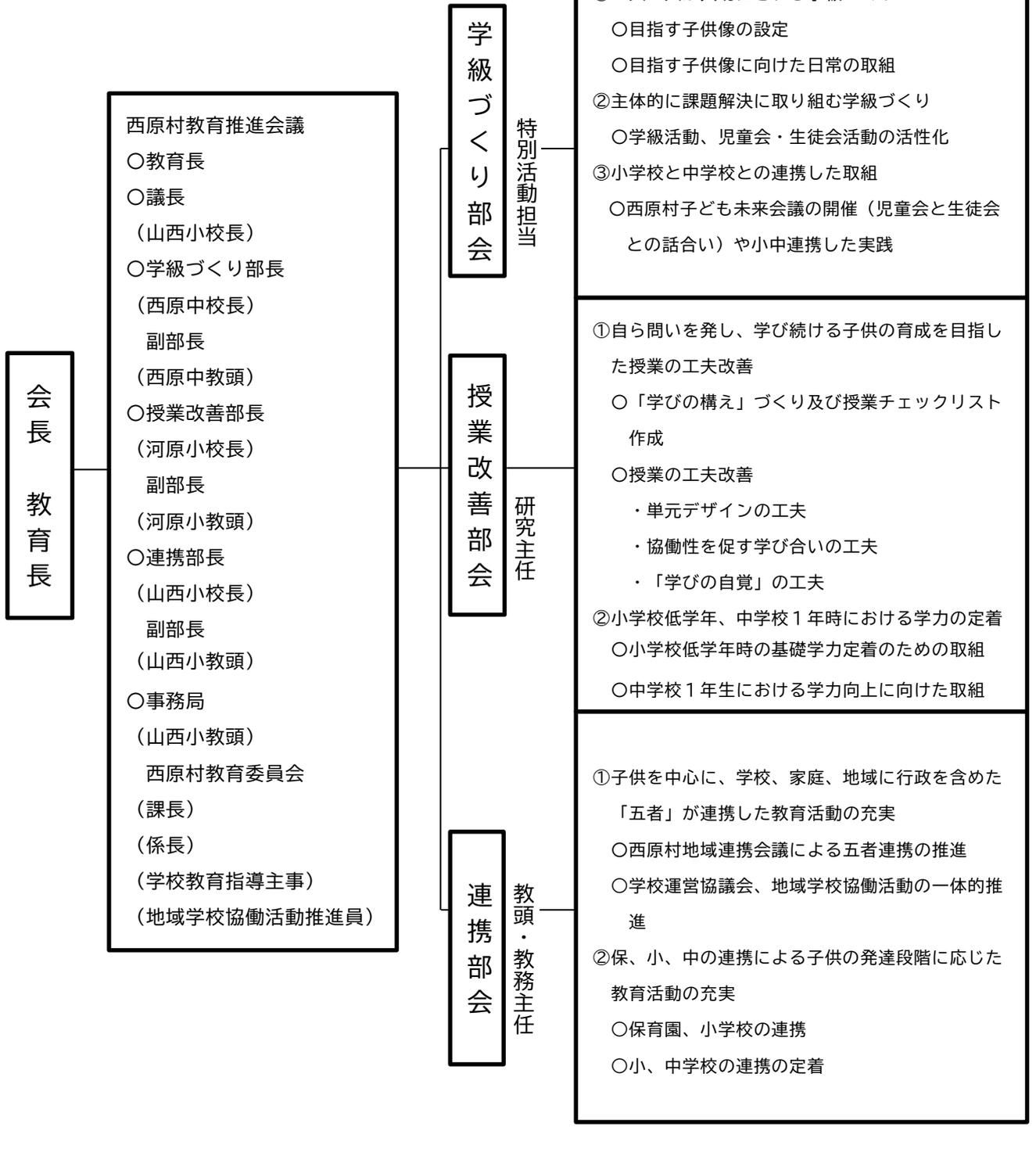
(3)連携について

- ①子供を中心に、学校、家庭、地域に行政を含めた「五者」が連携した教育活動の充実【横の連携・接続】  
(1③、2③、3③)

- 西原村地域連携会議による五者連携の推進
- 学校運営協議会、地域学校協働活動の一体的推進
- ②保、小、中の連携による子供の発達段階に応じた教育活動の充実【縦の連携・接続】(2②、3③)
- 保育園、小学校の連携
  - ・小学校1年時での生活・学習習慣の定着による学力の向上に向けた取組
- 小、中学校の連携
  - ・中学校1年時での生活・学習習慣の定着による学力の向上に向けた取組

研究組織体制

西原村「熊本の学び」研究推進委員会（組織図）



## 研究実施の実際

時期	実施内容
<b>【西原村全体】</b>	
R4 5月 9日	第1回西原村「熊本の学び」研究推進委員会
6月20日	「熊本の学び」ステップアップ研修3校合同研修会
8月 3日	「熊本の学び」研究指定地域情報交換会(オンライン)
11月 7日	第2回西原村「熊本の学び」研究推進委員会
11月28日	学校視察(大津町立大津中学校:R3年度研究指定校)
11月29日	学校視察(八代市立第一中学校:R3年度研究指定校)
R5 2月28日	第3回西原村「熊本の学び」研究推進委員会開催
<b>【学級づくり部会】</b>	
R4 5月24日	第1回「学級づくり部会」担当者会議 研究の視点、内容について
7月15日	第2回「学級づくり部会」担当者会議 児童会と生徒会の連携について
夏季休業中	第3回「学級づくり部会」担当者会議 アンケート、学級会進行表づくり
9月13日	第1回「西原村子ども未来会議」開催
10月28日	第2回「西原村子ども未来会議」開催
3月9日	第3回「西原村子ども未来会議」開催
<b>【授業改善部会】</b>	
R4 5月17日	第1回授業改善部会(児童生徒の実態分析、研究の視点、検証方法等検討)
7月21日	第2回授業改善部会(学習構想案形式検討、共通実践事項検討)
10月 4日	第3回授業改善部会(各校の進捗状況報告、今後の取組について)
R5 2月16日	第4回授業改善部会(中間発表会、県学調の結果を受けての成果と課題)
<b>【連携部会】</b>	
R4 5月19日	第1回連携部会
7月25日	村第1回英語部会(講師:坂田桂指導主事)
12月 2日	村情報教育研修会(ロイロノート研修)(66名参加)
12月 8日	村第1回情報教育部会
12月12日	村第2回英語部会(講師:坂田桂指導主事)
12月26日	第2回連携部会
R5 1月23日	第3回連携部会
1月27日	村第1回保小連携会議(講師:宮本光枝アドバイザー)
<b>【研究授業等】</b>	
R4 7月 8日	提案授業(4年 算数科 原田和典教諭)【山西小】
7月28日	特別活動研修会(講師:佐藤和也南阿蘇西小校長)【山西小】
9月14日	研究授業(特別支援学級(知) 算数科 松下里菜教諭)【山西小】
9月14日	提案授業(2年 英語科 井美奈帆教諭)【西原中】
9月21日	研究授業(5年 国語科 三宅恵美教諭)【河原小】
10月12日	研究授業(4年 国語科 栗焼勇斗教諭)【河原小】
10月19日	研究授業(5年 算数科 野上晶代教諭)【山西小】
11月 9日	研究授業(3年 国語科 松尾憲子教諭)【河原小】

11月14日	学校視察(高森中央小:ICT研究先進校)【山西小】
11月16日	研究授業(2年 算数科 八浪智香教諭)【山西小】
12月16日	研究授業(3年 算数科 安武大志教諭)【山西小】
R5 1月 9日	研究授業(6年 国語科 倉原知道教諭)【河原小】
1月26日	中間発表会(2年 国語科 石川洋介教諭、1年英語科 佐藤展幸教諭)【西原中】
1月30日	特別支援教育研修会(講師:堤秀崇産山学園副校長)【山西小】
1月31日	中間発表会(1年 算数科 甲斐理香教諭、6年 算数科 清原琢史教諭)【山西小】
2月 1日	中間発表会(2年 国語科 高見美圭教諭)【河原小】

## 市町村教育委員会の取組の実際

### ○研究の全体構想についての提案

- ・にしはらっ子元気プランの作成(基本理念、基本方針、目指す子供像、育成すべきスキルの共有化)
- ・研究の構想(主題、研究の仮説、研究の視点と取組内容、研究の組織等の共有化)

### ○各種研修会、会議等の開催と案内

- ・西原村「熊本の学び」研究推進委員会
- ・「熊本の学び」ステップアップ研修 3校合同研修会
- ・各部会
- ・視察研修
- ・中間発表会

### ○支援活動

- ・授業研究会、各部会の場における指導助言
- ・学力調査結果等の分析、助言
- ・各種団体・機関との連携や協力体制の構築

### ○研究成果の普及

## 研究の成果【検証方法】

### 1 地域共通

○授業改善部の提案に基づき、各学校において授業改善が推進され、教科によって、あるいは、学年によっては、学力の定着や伸びが見られる。【県学力調査】

○目指す子供像について共有し、3部会(学級づくり部会、授業改善部会、連携部会)の提案に基づき、その実現に向けて、保小や小中の連携した取組が行われて、連携が促進しつつある。【各学校の取組の様子】

### 2 中学校

○学級づくり部会の提案に基づき、生徒会が中心となり活動を進め、生徒の主体的な活動が促進しつつある。【生徒会活動の状況、県学力調査(i-check項目アンケート)】

○学力面においては、中学校1年生の学力の定着や伸びが見られる。【熊本県学力調査】【1年生に関する独自調査】

○学校運営協議会の活性化が図られ、地域と連携した取組が以前より積極的に実施されている。【学校運営協議会開催状況、アンケート調査】

### 3 小学校

○学級づくり部会の提案に基づき、児童会が中心となり活動を進め、児童の主体的な活動が促進されつつある。【児童会活動の状況、県学力調査(i-check項目アンケート)】

- 授業改善部の提案に基づき、各学校において授業改善が推進され、研究の中心に据えた教科では、学力の向上が顕著に見られる。【県学力調査】
- 学校運営協議会の活性化が図られ、地域と連携した取組が以前より積極的に実施されている。【学校運営協議会開催状況、アンケート調査】

## 研究の課題と今後の計画・展望

### 1 学級づくり部会の取組として

○不登校数の減少、児童生徒の自己肯定感や規範意識、発信力等の意識の向上によりつなげていく取組が必要である。課題解決に向けた手立てとして、以下を計画していく。

- ・「西原村子ども未来会議」の継続した開催と共通取組事項の確実な実践
- ・学校運営協議会等への児童生徒からの提言
- ・学級活動のさらなる充実による、児童生徒の主体性の育成
- ・「支持的風土」の醸成を図る学級経営の工夫

### 2 授業改善部会の取組として

○学習に関して、学習意欲や表現力の更なる向上を目指す。また、学力の定着に関して、個人差、学級間の格差、領域や観点間の格差を解消していく必要がある。課題解決の手立てとして、以下を計画していく。

- ・授業における子供のゴールの姿の教師と子供による共有化
- ・教科の「見方・考え方」を踏まえた児童生徒が「わくわくする」課題設定の工夫
- ・明確な目的のある対話活動の工夫
- ・授業における「振り返りの時間」の充実
- ・学習の基礎となる知識、技能面の確実な定着を大切にした授業の工夫

### 3 連携部会の取組として

○西原村地域連携会議がまだ準備段階で、五者連携における教育活動の推進が十分行われていない。また、家庭と連携した計画的な学習への取組をさらに図っていく必要がある。

- ・西原村地域連携会議の早期開催と実働
- ・保護者と連携した計画的な家庭学習の推進

## 研究成果の普及

- 中間発表会を実施し、熊本県教育委員会、阿蘇教育事務所、西原村教育委員会村内各学校の先生方に、授業公開や取組の発表を行った。
- 学校 HP に掲載し、保護者や地域住民に各学校の取組を紹介した。
- 各種研修会で取組の発表の機会を得て、阿蘇管内の先生方に取組を紹介する予定。